持続可能に関するシステム

私はディアーナ・イェンセンと申します。今、ベルゲンのクリスチアニア大学でホテルマネジメントを勉強しております。この大学では、毎日のようにと呼ばれている重要業績評価指標が会話の話題になります。簡単に説明するとこれは現在状態に関することを考えて、理想の将来へ行く「道」を探すことです。ここに決めた「道」が決定した将来に行くかどうかを証明します。このような「道」がいくつかのところに利用しているが、その中では持続可能として利用しているのがめったにありません。

 ４月からの「脱プラ」策を例とし、その結果はコンビニがプラスチック型のフォークやスプーンに削減したが、この一回以外に削減を続けるつもりがあるか分かりません。これを理由として、削減が続ける「道」があったらどのようになるかと考え始まりました。

１９９７年の京都議定書で３つの「道」がでました。「クリーン開発」、「共同実施 」と排出量取引」の「道」でした。3つのいいところは排出量がとどまることで、参加する国が削減や持続可能のために支援します。なぜなら自分のことだけではなく、国が一緒に目的のために進むからです。このような考えを持ちながら次の「道」を探したかったです。

そこで大事になるのは持続可能インデックスを作ることだと思います。一口で汚染するのと汚染を防ぐのを量る「道」になります。詳しくに防ぐ部分が３つに分け、社内に汚染を削減し、社外に汚染を削減するか持続的な支援を行い、汚染のおかげで行った事故で手伝うことです。

これを目的として国々が一緒に協力したら、持続可能の世界になれるかもしれません。 だが、このような理由だけで、始まる業務があるだろう。 もうすこしさせる理由があったら、始まるかもしれないが、それのとはどうなさいますか。

この点で「ノルウエ―食料安全保障庁」がよくできました。安全な食事を提供するレストランに3つの笑顔から一つを与えます。その笑顔がお客様にどのぐらい安全になるための準備があるのを伝えます。

嬉しい笑顔のレストランか悲しい笑顔のレストランで提供する選択が現れたら、どこに行きますか。皆様なら嬉しければ嬉しいほどのほうがいいと思ますか。持続可能の笑顔だったら同じ答えになるだろうか。